

研究テーマ：造血幹細胞移植後のサバイバーを対象とした精神的ケアに関する研究

国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科：清水研

**背景：**同種造血幹細胞移植（以下、Allo-HSCT）は、血液悪性腫瘍の根治療法の一つとして用いられ、良好な治療成績を残している。しかし、Allo-HSCT サバイバーにおいては、大量抗がん剤投与や全身放射線照射による晩期障害、感染症や移植片対宿主病、およびその治療薬による副作用や合併症など、様々な身体的問題が生じる。また、身体的問題だけでなく、職場復帰や再就職の難しさ、収入の減少といった社会的問題も生じることが知られている。これらの問題は治療終了後長期間が経過し、原病の治癒が確認された後であっても、慢性的なストレスナーとなって Allo-HSCT サバイバーの精神症状や生活の質（Quality of Life: QOL）に影響を与える。その影響は時に著しく、臨床的に問題となる精神的苦痛が高頻度に出現し、QOL の低下につながっていることが報告されている。一方で、複数の慢性的ストレスナーに曝露されても精神的苦痛が生じない Allo-HSCT サバイバーもあり、慢性的ストレスナーから精神的苦痛への影響の個体差を規定する因子の存在が想定される。本研究では、そのような規定因子となる可能性があり、かつ介入によって苦痛を軽減する方向に変容可能である心理学で用いられる 4 つの概念、①自己効力感（Self-efficacy: SE）、②首尾一貫感覚（Sense of Coherence: SOC）、③心的外傷後成長（post-traumatic growth: PTG）、④孤独感について検討する。これらの概念は今まで一部個別に検討はされているが、Allo-HSCT サバイバーについて包括的に検討した報告はない。これらの 4 つの因子について、Allo-HSCT サバイバーの精神的苦痛の規定因子としての優劣を明らかにすることにより、どの規定因子に焦点を当てると最も効果的であるかが示され、有効な介入法を開発するための基礎資料が得られる。本研究の目的は同種造血幹細胞移植サバイバーにおける精神的苦痛の実態を明らかにし、その規定因子を同定することである。

## 対象と方法：

### 1. 対象

以下の適格基準を全て満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者を登録適格例とする。

#### 適格基準

- 1) 2010 年 1 月以降に同種造血幹細胞移植を受けた患者。
- 2) 同種造血幹細胞移植後 100 日以上が経過した患者。
- 3) 同種造血幹細胞移植後の経過観察目的で外来通院中の患者。
- 4) 現在臨床的に原病の寛解が確認されている患者。

- 5) 満 20 歳以上の患者。

#### 除外基準

- 1) 評価項目への回答に耐えられないほど身体症状が重篤だと担当医が判断した患者。
- 2) 評価項目への回答に耐えられないほど精神症状が重篤だと担当医が判断した患者。
- 3) 認知機能障害が認められる患者
- 4) 日本語の読み書きができない患者。

## 2. 調査項目

調査項目は、対象症例に回答を求める患者調査項目と、医療者に回答を求める医療者調査項目の 2 種類である。

### ●患者調査項目

以下の 10 項目および評価尺度を調査する。

- 1) 年齢
- 2) 性別
- 3) 最終学歴
- 4) 居住形態（同居人の有無と属性）
- 5) 婚姻状況
- 6) 子どもの有無
- 7) 就労／就学の状況
- 8) 現在の年収
- 9) 精神科・心療内科等メンタルヘルスに関する医療機関の受診の有無
- 10) 主観的健康感

Hospital Anxiety and Depression Scale 日本語版

MOS 36-Item Short-Form Health Survey 日本語版

日本語版 Euro QOL

がん患者用自己効力感尺度

13 項目 7 件法版 Sense of Coherence scale

Posttraumatic Growth Inventory 日本語版

改訂版 UCLA 孤独感尺度日本語版

### ●医療者調査項目

以下の 10 項目を調査する

- 1) 血液悪性腫瘍の診断名

- 2) 同種造血幹細胞移植の施行日
- 3) 移植時病期
- 4) 前処置レジメンの種類
- 5) 全身放射線照射（TBI）の有無
- 6) ドナー／HLA
- 7) 現在の GVHD の重症度
- 8) 現在の GVHD 以外の合併症の有無
- 9) 現在投与中の免疫抑制剤の種類
- 10) 医療者による健康状態評価（ECOG Performance status）

### 3. 主たる解析

HADS により評価された不安・抑うつを従属変数として、介在要因として以下の4つの尺度項目（①自己効力感（Self-efficacy: SE）、②首尾一貫感覚（Sense of Coherence: SOC）、③心的外傷後成長（post-traumatic growth: PTG）、④孤独感）との関連を明らかにする。

**結果：**全国24の移植実施施設の参加を得て、合計831通の返送を得た。現在解析中であり、今年度中の解析終了を目指している。

**考察：**大規模調査を行うことが出来た。解析は途上であるが、わが国の多施設における移植患者の実態を反映する結果が得られることが期待される。